

『いま、話しておかないと』

《教師たちの戦時下体験》』（弦書房刊）

福岡高退教五十周年記念事業委員会 [編]

福岡高退教は今年結成 50 年を迎えました。記念事業の一環として、機関紙「高退教だより」に会員が投稿連載してきた「私の戦時下体験」を、一冊の書物にまとめて出版することにしました。

戦争を知らない世代にも貴重な体験を伝えたい

49 編の体験記録が、次の 8 章に編集されています。

- [I] 軍隊・戦地体験 [II] 空襲と銃爆撃体験 [III] 原爆体験
- [IV] 外地の生活と引揚げ体験 [V] 戦時下の教育・勤労動員 [VI] 戦時下の日常
- [VII] 戦後の聴き取りと語り継ぎ [VIII] 平和を求めるとりくみ

当時の戦争を知らない世代の人達にも理解が得られ、語られた体験がより深く伝わるように、戦争や軍隊にまつわる用語、当時の日常生活や学校制度等には、見開きそれぞれの頁ごとに語注を加えています。

ウクライナで始まった戦争は、77 年前に終わった日本の戦争の記憶を今更のように甦らせました。

一旦戦争が起これば、一般の市民に塗炭の苦しみ強いることは明らかです。二度と戦争をしてはならないとの戦争体験者の思いは、今こそ受け継がなければなりません。

読み継ぎそれぞれの「世代の記憶」としよう

戦争の記憶は、実際に体験した世代、その人達から体験を語り伝えられた世代、それを受け継ぐ若い世代へ各「世代の記憶」として積み重ねていくことで、より豊富なものにしていく必要があります。その一助となることを願い、この書物は出版されました。

是非お買い求めいただき、語られた証言を皆さんがさらに伝えていただければ幸いです。

